特253
681

大正天皇御聖德

始

大正天皇

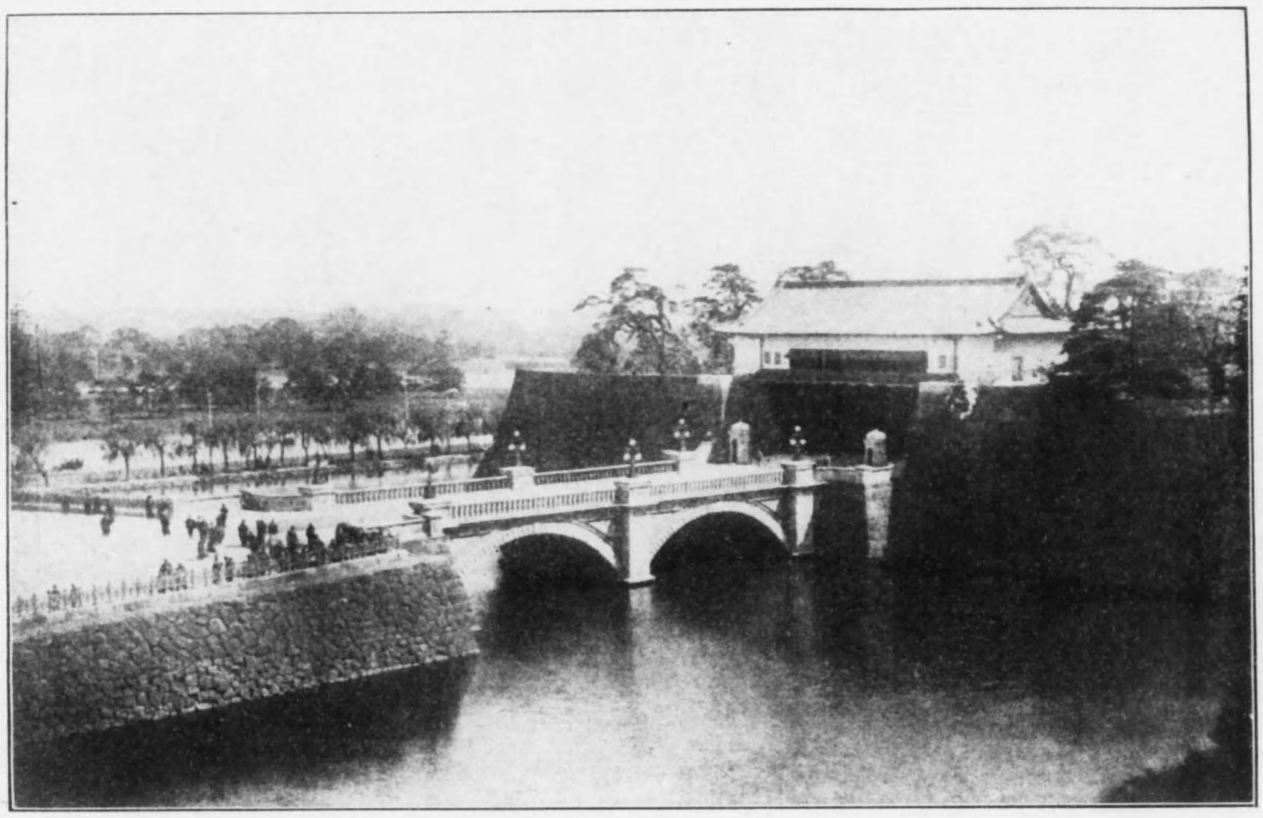
特253
681

大正天皇奉悼歌

一、地にひれ伏して天地に
いのりし誠いれられず
日出づる國の國民は
あやめもわかぬ闇路ゆく。

二、おほみはふりのけふの日に
流るゝ涙はてもなし
きさらぎの空春あさみ
寒風いとどみにはしむ。

宮　　城



大正天皇御幼少よりの御眞影

大正天皇御年譜

大正天皇は御名は嘉仁、お小さい時は明宮と申し上げました。

明治十二年八月三十一日　明治天皇第三の皇子として、青山御所にお生れになりました。

明治二十年八月三十一日　東宮におなりになりました。

明治二十二年十二月二日　立太子式をおあげになりました。

明治三十二年五月十日　御成婚の式をおあげになりました。

明治四十五年七月三十日　妃殿下は九條道孝公のお子様で御名を節子と申し上げます。明治天皇がおかくれになりましたので天皇の御位におつきになりました。

大正四年十一月十日　京都で御即位の式をおあげになりました。

昭和二・三・二二 帝國圖書

大正十年十一月二十五日　御病氣のため皇太子裕仁親王を攝政になさいました。
大正十五年十二月廿五日　葉山で崩御せられました。
　　御年四十八であらせられました。
昭和二年一月二十日　御追號を大正天皇と申上げ、御陵は、「多摩陵」と申し上げることになりました。
昭和二年二月七日　御大葬を行なはせられます。

大正天皇の御聖德

〔一〕お小さい時のこと

1　御誕生と、明治天皇のおよろこび

大正天皇は、今から四十九年前、明治十二年八月三十一日の朝、東京の青山御所で、お生れになりました。その時、日本の國の人人は、どんなによろこんだことでせう。とりわけ、御父明治天皇は、大へんおよろこびになりました。大正天皇の前に、お生れになつたお子樣方四人は、皆お小さい時に、おかくれに

なつたのです。おかくれになるごとに、御父明治天皇は、申すまでもなく、日本の國民は、皆かなしんでゐました。こんな御ふしあはせのつづいたおんあとで、お生れあそばされたのが、大正天皇であらせられたのです。

2　お小さい時の御名とおすまゐ

お生れになつた年の九月六日、御名をおつけになつて、明宮嘉仁親王と、おほせられることになりました。そうして御年七つにおなりなさるまで、新しくおこしらへになつた明宮御殿で、大きくなられました。そうして、明治天皇の御生母で、大正天皇にしては、御祖母さまにあたらせられた一位の局中山慶子の方が、まごゝろこめて、おそだてになりました。ところが、大正天皇はお小さい時からおよわくあらせられたので、一位の局は平生から信じてゐられた神様に、おいのりせられて、おからだのおたつしやになられるやうにおねがひせられました。その後大きくなられますにつれて、段々お丈夫になられたさうです。

3　大へん御孝心深くあらせられました

御父明治天皇が、大正天皇のおそだてについて、大へん御心をおかけになりましたが、又大正天皇も、お小さい時から父陛下の御身を、御あんじなされたことは、一通りではなかつたと申します。

まだ五六才の御頃、明宮御殿においでの時、夜ふけに、時時、鐘のなるのが御耳に入ると、きつとお眼をさまされて、おそばのものに、

「あの火事は御所の方ではないか。」

と、仰せられ、父陛下におかはりがないとわかつてから、はじめておやすみになつたといふことです。

又、或時の陸軍の大演習に、大正天皇は、御父陛下を、驛まで御みおくりにな

つて、

「お父様、おかぜを召しませぬやうに。」

と、おわかれのことばをおのべになると、明治天皇は、大へんおよろこびになり、いくどもお頭をおなでになつて、大へんお名殘をしさうに、御出立になつたさうです。

この御ありさまを、見てゐた人々は、その御孝心のふかいことを、一樣にかんしんしたといふことです。

4　兄弟げんくわを、おわけ遊ばさる

大正天皇の、お小さい時分の御友だちであつた西鄕從德と云ふ方のお内に、犬の子が生れたので、それを天皇にさし上ることになりました。

ところが、その犬は、その人の弟が、大へんかあいがつてゐて、なかなかてばなしません。そしてさし上るなら、一しよに御殿にまゐるといつて、きゝませんでした。

そこで兄弟二人が御殿に行つて、その犬をさしあげ、明宮樣のお喜びのおかほを、拜して歸らうとすると、弟はその犬に別れるのがかなしくなつたと見え、つれてかへるといひ出しました。

しかし兄さんは、一たんさしあげたものを、つれてかへることは出來ないといひきかせましたが、弟は、どうしてもつれてかへるとだゝをこね、おそれおほくも、明宮樣の前で、兄弟がけんくわをはじめてなきわめくといふしまつです。

それをごらんになつた明宮樣は、二人のあひだにおはいりになり、泣いてゐる弟の頭をおなで遊されながら、二人をおなだめになつたさうで、その時は、明宮樣は御年七つ、けんくわをした兄さんは八つ、その弟が、五つだつたさうで

す。

その方が今でもそれを思ひ出すと、「ありがたくて、むねが一ぱいになる。」と云つておられますさうです。

5　東宮におなり遊ばして學習院へお入りになつたこと

天皇の御七才のとき、明宮御殿をお出ましになり、青山御所におうつりになりましたが、あくる年、八才にならせられました明治二十年八月三十一日、東宮殿下におなり遊ばし、明治二十二年十一月三日、明治天皇の天長節のおめでたい日に、立太子の式をおあげになりました。

それからまもなく、學習院といふ學校に、お入りになつて、たくさんな生徒たちと一しよに、御べんきやうなさいました。

6　おなさけ深くあらせられたこと

大正天皇のまだ七八才の頃でありました。或日駒場の農學校に、お成りになりました。その時はまだお小さくあらせられましたから、校長さんは宮樣をおだき申し上げて、動物小屋をごらんに入れました。

宮樣は大人も及ばぬやうな、こまかい所へ、お氣をとめられて、いろ〳〵の事をおたづねになり、しまひには小さな御手をお出しになつて、牛の頭を御やさしくおなでになつたり、羊の頭をおなで遊ばしたりして、かつてある動物をあはれませ給ふ御ありさまを拜したものは、皆なみだぐましくなつたさうです。

その時の校長さんは、高橋是清といふ方で、後に總理大臣におなりになられましたが、その時、度々、

「高橋、下役のものを大切にかはいがつてつかはせ。」
と仰せられたさうです。
天皇は、このやうにおなさけ深くあらせられました。

〔二〕學習院に御かよひの頃のおんこと

1　御元氣よくあらせられたこと

或日のこと、其時分の宮内大臣、土方伯に向はせられ、
「ぢいや、私は軍人のランドセルに本を入れて、學習院に行きたいよ。」
と、仰せられました。伯はこれをうけたまはると、
「勇ましいお心がけでございます。」
と心から喜んで、すぐ背嚢をつくつてさし上げました。それからは、毎日それを負つて、大へん元氣よく、勇ましく、おかよひになりました。
それを拜した學習院の生徒たちは、皆それにならうて、我も我もと、みな正服に、ランドセルを負ふやうになつたと、いひます。
又その時分は、御丈夫で、かつぱつであらせられ、相撲が大へんおすきで、御自分も、大さうおつよくあらせられたといひます。
或ときは御殿内のお堀で、船遊や、水遊をあそばされ、又よくボートにお召になつて、隅田川をお上りになりました。とりわけ水合戰などをして、一日おもしろく、勇ましく、おすごしになつた事は度々であつたと申します。
又書方が大へんお上手で、御學友たちは、とても及ばなかつたといふことです。

2　しんぱうづよくあらせられたこと

或時御所で、御學友たちと共に、お遊びになつてゐた時のことです。にわかに、

「お腹がすいた。早く食事にせよ。」

と、仰せられました。

おそばのものは、大へんいそいで、陛下の分だけをさし上ると、陛下は、

「今日は皆もこゝで一しよにたべよう。」

と、仰せられましたから、おそばのものは、いそいでおこしらへすることにしましたが、でき上るまでは、しづかにおまちになつたといひます。

3　御學友たちに御親切であらせられた

學習院へおこし遊ばされてゐた頃のことです。或日、おかへりになるとすぐ、おそばづきのお醫者をおよびになつて、

「榎本が眼がよくないので困つてゐる樣子だから、すぐ行つて見てやつてくれ。」

と、仰しやつたので、お醫者はさつそく行つて見ましたが、仰せのとほり、ふつうの眼の病ではなくて、すてゝおくと、まもなくつぶれてしまひさうなあぶない病氣でしたので、すぐていねいにてあてをしてかへりました。

それがために、榎本といふ人の眼病は、大したことにもならずに、すつかりよくなりました。

それで、その人のお父さんは、いつも

「お前の眼は、東宮から頂いたものだ。」

といつて、大へんよろこんで居られたさうです。

〔三〕　大きくおなりになつてから

1　赤坂御所で御勉强

天皇は今まで學習院といふ學校に御通ひになつて居られたのを、御年十六の夏から、天皇になられる學問をなさるため、赤坂御所の内に、御學問所をおこしらへになり、名高い日本の學者や、フランスの學者について、御熱心に御勉強をなさいました。

その時の先生の一人が「殿下は大そう御德の高い、おかしこいお方です。」と、しじう申上げてゐました。

2　物覺のおよろしい事

かうして御勉強なさいました天皇は、いたつて物覺えおよろしく、一度御覽になつた事や、お聽きになつた事は、なか〳〵お忘れになる樣な事がありませんでした。

或時のこと、天皇はおそばの一人の士官に「お前の馬は。」と、お尋ねになりました。士官はどんな馬であつたかすつかり忘れてゐましたので、お答へ申し上げる事ができませんから、もぢ〳〵いたして居りますと、天皇は「お前はよく物忘れをするね。私がこの間ここを通つた時に、お前はその馬にのつてゐたのではないか。」

と、おほせになりました。

3　御立派な天皇に

天皇は御年十一で皇太子になられ、陸海軍少尉に任ぜられ、近衛聯隊附になられました。

御年十七才で大尉に、二十才で少佐に、それからづん〳〵おのぼりになつて、三十二才の御時陸海軍中將になられました。三十四才におなりの時天皇の御位におつきになりました。

そして、大元帥となつて、日本の軍隊をみなおすべになることとなりました。

4　軍隊の御事に御熱心

天皇は皇太子の御時から、軍隊の事が大へんおすきで、色々と御熱心におしらべになり、わからぬ事は何んでもすぐ一一おききになつて、御とくしんのいかれるまで、お尋ね遊ばされました。

5　お馬にお乘りになるのがお上手

天皇はお小さい時から、お馬にお乘りあそばす事が大へんおすきでその上中々お上手でした。どんなに荒い馬でも、すぐおならしになつて、おとなしい馬にしておしまひになりました。おけいこをお始めになつてから、一度も馬からおちられる樣な事はありませんでした。

6　私も兵隊さん

天皇が御年十四才の時、或日急に陸軍の兵營におでかけになり、色々その樣子を御覽になりましたのでおひる頃になりました。

天皇はおつきの人々に、「すぐ御飯を持つて來い。」と、おほせになりました。しかし兵營では兵隊さんにたべさせる黑パンの外は、何も用意してありませんでしたから、すぐおまにあはせ申すことが出來ませんので、聯隊長からおそれながらその事を申し上げますと、天皇は、「私も兵隊さんだ。その黑パンでよろしい。すぐもつて來い。」と、おほせられましたので、みんなおそれいつたといふことです。

7　おなさけぶかい事

天皇は明治四十二年北の方の國々をおまわりになりました。お出むかへしてゐたこのへんの人々の中に、眼のわるいものがたくさんあつたのを、目ざとくごらんになつて、「このへんの人々は眼のわるいものが多い。」とおほせられて、この土地の役人に、「なんとかしてなほしてやる樣に、」とおほせになりましたので、おつきの人々や、このへんの人々が、みんな天皇のおなさけぶかい事にみだをながしたといふことです。

8　孝行の心の御深きこと

明治二十八年、日本と支那と戰爭をしてゐた最中、天皇は御父明治天皇と御一所に、廣島へお出かけになりました。

或晩御殿の近所に火事がありました時、天皇はすぐ二階へお上りになつて火元をごらんになりました。その火元が父君のおいでになるごてんのおそばでしたから、すぐ下にお降りになつて、上草履のまま、いそいで御父君のごてんにまいつて、御見舞を申し上げられましたので、みんな天皇の孝行の御心の深いことにかんしんをいたしました。

9　日本國中をおまわりになつた事

天皇は政治においそがしいにもかゝわらず、時々宮中をおでましになつて、方方の國々をおまわりになりました。明治三十年には京都へ、明治三十五年には青森の方へ、明治三十六年には大阪へ、明治四十年には朝鮮へ、明治四十四年には北海道へおいでになりました。かうして日本國中大ていおまわりになりました。おいでになつた所では、學校や役所をごらんになつたり、人民の商賣の事や、くらしむきのことまでこまかくお氣をつけて御覽になり、ありがたいお言葉までも下されました。

10　大阪の方へは四度おこしになつた

天皇は大阪の方へ四度もおこしになりました。一ばん初めは明治三十六年五月で、その時は大阪で開かれてゐた博覽會をごらんにおいでになつたのです。

11　堺市にもおいでになつた

明治三十六年五月二十九日、大阪へおいでのせつ堺市にもおこしになりました。そして水族館をごらんになりました。皆さん、あの水族館の二階にきれいな間がありませう。あそこで天皇がお休みになつたのです。その頃天皇はまだ皇太子でゐらつしやつたのです。

南海鐵道堺驛から、あの勇ましいお姿で、お馬車にのつて水族館におつきになりました。ここでは一一ていねいにごらん遊ばして、夕飯をおめし上りになりました。しばらくお休みの上、水族館の夜のけしきをごらんになりました。その時、水族館はイルミネーションといつて、たくさんな電燈できれいにかざつて、御らんに入れましたので、天皇は「きれいだな。」とおほめになつて、午後八時ごろおかへりになりました。おかへりの時堺の學校の生徒八百人が紅い提灯をもつて、おかへりの道筋をおてらし申し上げてお見送りいたしました。

〔四〕　天皇の御位につかれてから

明治四十五年七月三十日、父君明治天皇が御病氣でおかくれになりました。ふだんから大そう孝行の御心のふかい天皇ですから、御心配とおかなしみとで、ごはんもろくにおめし上りにならなかつたと申します。けれども天皇の御位は一日もかくことはできません。すぐ天皇の御位をおつぎになり、一日もごゆだんなく宮城におでましになり、日本國中をおをさめになりました。

おかなしみのなみだのまだかはかぬうちに、大正三年三月、こんどは昭憲皇太后がおかくれになりました。この時も天皇のおかなしみは一通りではなかつたとうけたまはつて居ります。國民はこれをきいて、おそれ多い事だと申しあつて居りました。

大正四年十月に京都で天皇の御位におつきになる式をおあげになりました。まもなく澄宮樣がお生れになつて、皇子ばかりが四人にもなりました。みんな御立派な皇子樣ばかりですから、私ども國民はおよろこび申し上げました。只今の天皇陛下は、四人の皇子樣の一ばんお兄樣です。

〔五〕 おかくれ遊ばさる

大正天皇はお生つき少しお弱いお方でしたので、つね〳〵運動などにお氣をつけておからだを丈夫になさることをお心におかけ遊ばされましたが、ふとした御病氣がもとでだん〳〵おわるくなられましたので、葉山の御殿で御養生遊ばされてゐました。そして皇后陛下をはじめ、皇太子殿下・皇太子妃殿下・そのほか多くのお宮樣方が、御枕元でいろ〳〵御看護なさいましたのに、そのしるしもなく、御病氣は日に日におわるくなるばかりです。これを聞いた日本國中の人々は、みんな大へんごしんぱい申し上げて、一心に天皇の御病氣の早くおよろしくなるやうに神樣にお祈りをいたしました。けれどもとう〳〵、大正十五年十二月二十五日午前一時二十五分におかくれ遊ばされました。國民はみなお父さまにでもお別れする樣になげきかなしみました。

〔六〕 御大喪の御事

我々國民は天皇の御代が千年も萬年もつづきまする樣においのり申し上げて居りましたのに、御位におつき遊ばされてから十五年、まことにお短い御一生で

ございました。

皇太子殿下はすぐ天皇の御位をおつぎになつて、年號を昭和とお改めになりました。

そして大正天皇の御陵を東京府下淺川村武藏陵墓の内におさだめになり、多摩陵と申し上げ、ここに天皇の御靈をしづめまゐらせる事になりました。

昭和二年二月七日に東京新宿御苑葬場殿で御大葬儀を行はせられます。

この日は午後六時宮城をおでましになり、この葬場殿におまつり申し上げて、おごそかな式をあげられます。午後九時には、天皇陛下を初めお宮樣方や各大臣方がおまゐり遊ばされ、式がすむと、その夜すぐに汽車で淺川村の多摩陵へ御送り申し上げます。

そして大正天皇の御靈は、永く〳〵この陵にしづまりますことになるのです。

303
102

昭和二年二月三日印刷
昭和二年二月七日發行

【定價 金拾參錢】

編者　堺小學教育研究會

發行者　堺市大町東一丁目三一　今井平次郎

印刷者　大阪市西區阿波座中通二丁目　井下精一郎

印刷所　大阪市西區阿波座中通二丁目　井下書籍印刷所

發行所　堺市大町東一丁目三一　今井文岳堂

不許複製

終